

ピアサポーター派遣事例②

ピアサポーターの派遣開始後、
就労継続支援事業所への通所が安定した事例

ピアサポート派遣事例

< **ご本人** > Bさん(女性) 発達障害

< **依頼のきっかけ** >

職場での対人関係などの不満等で就労継続支援 A 型を休みがちになっていた。知人の当事者へ職場の不満等を相談していたが、知人からピアサポートがあることを教えてもらい、相談依頼。

< **Bさんの主訴** > 「職場の不満やしんどさを誰かに話を聴いて欲しい」
→ B さんご本人からピアサポート派遣依頼

派遣当初の印象

- **職場や、職場へ行く道中での出来事などの不満を話す。**

「先輩の利用者からきついことを言われる。」

「指導員がこんな言い方をする」

「会社の悪口をSNSに書いてしまって怒られた。」

「通勤中のバスの中で走り回る子ども(おそらく障害児)がいて危ない。」等。

- **コミュニケーションの苦手さと被害者感、切り替えの苦手さ。**

相手の立場にたって物事を考えることが苦手で、自分が被害を受けていると感じやすい。不満や困りごとがあってもその場で言えず、不満を解消できないまま気分の切り替えができない。

ピアサポート的なかかわり

- **仕事の不満の話題だけに焦点化しないかかわり(気分の切り替え)**

話題が合いそうな同性のピアサポーターをつなぐ

趣味のアイドルや漫画の話題

レクリエーション活動(ハロウィーンのかぼちゃ作り等)

- **他者の立場への気づきを促す声かけ**

「あなたにもハンディ(障害や生きづらさ)がある。そして、私たちピアサポーターにもハンディがある。そして、あなたが苦手な利用者やバスで騒ぐ子どもにもハンディがあるんだよ。」

(同じ障害があるピアサポーターが介在することで、皆それぞれの立場や困りごとがあり、「お互い様」であることを共有しやすい。)

徐々に出勤日数が増える

出勤カレンダーで報告

「今月はこれだけ出勤できたよ！」とピアサポーターへ報告。
→ピアサポーターから出勤できていることをねぎらい、「来月はこれくらい行けるように頑張ろう。」と励まし。

<現在>

ピアサポート開始から約半年経過、本人は現在 A 型に毎日通所できるようになっている。

まとめ（本事例のピアサポートの効果）

・インフォーマルなソーシャルサポートの重要性

A型の職員、相談支援専門員、主治医などフォーマルな支援者はいたけれど…。それだけでなく、職場以外で愚痴を吐き出せたり、認めてくれる仲間・友人的な存在(インフォーマルな人間関係)が大切だったのでは。

・同じ立場・経験者からの声かけがより効果的だった可能性

相手に一方的に不満を感じて被害的になりがちなBさんにとって、ピアサポーターから「皆それぞれの障害や生きづらさがある」「お互い様」という視点を伝えることは、専門職が同じことを伝えるより説得力があったのでは。 Bさんの‘被害者意識’を和らげ、助言がより効果的になった可能性がある。

こんなケースでピアサポート派遣の活用を

- 支援体制は組んでいるけど、なんだか本人が元気がない
(支援者以外のつながりを求めているのかも?)
- サービスを利用した方が良さそうだけど、本人が利用を迷っている
(本人にサービスの良さが伝わってなかったり、サービス利用への不安を
しっかり話せていないのかも?)
- ひきこもり・支援拒否傾向のケース
(同じ病気の人なら話しても良いかな…と思っていそうな人。少しずつ人が
入ることに安心するかも?)

支援の行き詰まりの突破口になることもあるかもしれません。

新しい依頼をいただけるとピアサポーターも経験値・スキルアップにつながりますので、ぜひ派遣を利用してみてください。